

被災地派遣レポート＜第61回＞

建設局第四建設事務所工事第一課 寺井 栄太さん

1 はじめに

平成24年10月1日から同年12月31日までの3ヶ月間、岩手県沿岸広域振興局に派遣職員として被災地支援に携わりました。本レポートで、この3ヶ月の業務内容及び感じたことなどを報告します。

2 派遣先について【岩手県沿岸広域振興局】

岩手県沿岸広域振興局は岩手県釜石市及び大槌町を管轄としています。当該地域はリアス式海岸を形成している箇所や急傾斜地が多いところです。

土木部は、河川港湾課、道路整備課など7つの課で構成され、私は河川港湾課に在籍していました。

河川港湾課は、主に防潮堤・水門等の整備や河川構造物・港湾施設の維持管理等の業務を所管し、職員の構成は、岩手県職員が9名、東京都含め派遣職員が9名（静岡県5名、福岡県1名、東京都3名）、期限付き職員が2名、臨時職員が2名となっており、3ヶ月間はこのメンバーで業務を進めました。



派遣されている職員等の集合写真

3 釜石市、大槌町の現状

私が派遣された時点では、被災後1年半以上経過しているにもかかわらず、津波の影響により、家屋が流出した土地は基礎しか残っておらず、また、瓦礫も未だ被災地に残っており、津波被害の甚大さを物語っていました。

特に小白浜海岸の防潮堤（高さ約12m）は、津波により押し倒されており、津波の破壊力が想像を遥かに超えるものだと実感しました。



処理できていない瓦礫



津波により倒壊した防潮堤

4 業務内容

私の担当は、津波で被災した道路附属物及び水門の復旧工事の現場監督、防潮堤の設計業務、公共埠頭に立地していた上屋の建築工事に伴う事務処理等でした。また、釜石市及び大槌町の現状を東京都職員にお知らせするための「かまいしだより」の編集も行いました。

私は水門工事に携わることが初めてでしたが、職場の方のアドバイスを受けながら円滑に工事を進め、降雪前に現場を完了することができました。

また、地元施工業者との打ち合わせの際に、方言で聞き取れないときがあるなど、派遣前には想像もつかなかった苦労もありましたが、地元の方とのコミュニケーションの良さきっかけとなりました。

5 地域の皆さんとの交流など

派遣期間中、岩手県のリフレッシュ行事に参加することができ、サッカー大会で優勝するなど心に残る出来事がたくさんありました。

また、休日には職場の方などと食事や小旅行に行く機会があり、とても充実した生活を送ることができました。特に、釜石市や大槌町は、新鮮な魚貝類が多く、みんなで牡蠣の食べ放題など食事をしたことが楽しい思い出となっています。

このような仲間と巡り会えたことに本当に感謝しています。派遣期間が終了した後も、交流を続けていきたいと思えます。



岩手県サッカー大会のメンバー

6 派遣を終えて感じたこと

今回の派遣期間である3ヶ月は、とても短く感じました。私は被災地支援が初めてで、右も左もわからないところから始まり、災害復旧の理解を深めている段階で派遣期間が終了しました。このような私に、職場の方には様々な場面で助けていただき、組織で仕事を行うことがどれだけ重要なことか、今一度教えていただきました。この被災地支援の経験を活かし、職場でも仲間と協力して業務を進めていることを忘れず、連帯感を持って仕事をしていきたいと思っています。

3ヶ月という短い期間で支援できたことは少なかったと思いますが、今後も様々な支援活動に参加し、被災地が少しでも早く復興できるよう力になればと考えています。

最後に、派遣期間中お世話になった方々に対し、心より御礼を申し上げます。

ありがとうございました。